

# 重要な会計方針及び財務諸表注記

## 〔重要な会計方針〕

### 1. 運営費交付金収益の計上基準

業務達成基準を採用しております。

なお、業務の進行状況と運営費交付金の対応関係が明確である活動を除く管理部門の活動については期間進行基準を採用しております。

### 2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品は、最終仕入原価法によっております。

### 3. 減価償却の会計処理方法

1) 有形固定資産の減価償却の方法については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物	5～50年
構築物	10～50年
機械及び装置	4～7年
船舶及び航空機	2～5年
車両運搬具	5～6年
工具器具備品	3～10年

また、特定の償却資産（独立行政法人会計基準第87）及び資産除去債務に対応する特定の除去費用等（独立行政法人会計基準第91）の減価償却相当額については、損益外減価償却累計額として資本剰余金から控除して表示しております。

2) 無形固定資産の減価償却の方法については、定額法を採用しております。なお、法人内利用のソフトウェアについては、法人内における利用可能期間（5年）に基づいております。

### 4. 賞与に係る引当金及び見積額の計上基準

賞与については、運営費交付金から財源措置がなされるため、賞与に係る引当金は計上しておりません。

なお、行政サービス実施コスト計算書における引当外賞与見積額は、事業年度末に在籍する役職員について、当期末の引当外賞与見積額から前期末の引当外賞与見積額を控除して計算しております。

### 5. 退職給付に係る引当金及び見積額の計上基準

退職一時金については、運営費交付金により財源措置がなされるため、退職給付に係る引当金は計上しておりません。

また、行政サービス実施コスト計算書における引当外退職給付増加見積額は、事業年度末に在職する役職員について、当期末の自己都合退職金要支給額から前期末の自己都合退職金要支給額を控除した額から、退職者に係る前期末退職給付見積額を控除して計算しております。

### 6. 外貨建資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、為替差額は損益として処理しております。

## 7. 行政サービス実施コスト計算書における機会費用の計上方法

政府出資の機会費用の計算に使用した利率

10年利付国債の平成29年3月末利回りを参考に0.065%で計算しております。

## 8. リース取引の処理方法

リース料総額が3,000千円以上のファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

リース料総額が3,000千円未満のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

## 9. 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっております。

## 10. 積立金の国庫納付等

1) 前中期目標期間最終年度の積立金の期末残高は260,513,405円であり、これに前中期目標期間の最終年度の未処分利益2,092,868,523円及び前中期目標期間繰越積立金の使用残高18,622,049円を加え、積立金は2,372,003,977円となっております。

2) この積立金2,372,003,977円のうち、今中期目標期間の業務の財源として繰越の承認を受けた額は1,630,618,734円であり、差し引き741,385,243円については国庫に納付しております。

## 〔重要な会計方針の変更〕

運営費交付金収益の計上基準については、前事業年度まで費用進行基準を採用しておりましたが、独立行政法人会計基準等の改訂に伴い、当事業年度より、業務達成基準を採用しております。なお、業務の進行状況と運営費交付金の対応関係が明確である活動を除く管理部門の活動については期間進行基準を採用しております。これにより、前事業年度と同一の方法によった場合と比べて、経常損失、当期純損失はそれぞれ23,897,914円減少しております。なお、行政サービス実施コストに与える影響はありません。

## 〔重要な表示方法の変更〕

なし

## 〔貸借対照表関係〕

1. 運営費交付金から充当されるべき引当外賞与見積額 300,907,572 円
2. 運営費交付金から充当されるべき退職手当の見積額 1,444,279,598 円

### 3. 減損について

減損の認識

#### (1) 生態系研究フィールドⅡ

##### ① 減損を認識した固定資産の用途、種類、場所、帳簿価額等の概要

用途	種類	場所	帳簿価額	
生態系研究フィールドⅡ (実験ほ場)	土地、建物等	茨城県つくば市八幡台 3	土地	1,788,590,880 円
			建物等	33,659,830 円

概要： 生態系研究フィールドⅡにおいては、これまで実施してきた樹木の光合成測定、植生回復速度測定の研究を発展させ、近年重要な課題となっている地球温暖化のメカニズム解明や将来予測に欠かせない炭素循環、特に森林等陸域でのCO2吸収・放出量の解明のための実験的研究が行われてきました。

##### ② 減損の認識に至った経緯

独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針（平成22年12月7日閣議決定）に基づき、生態系研究フィールドⅡについては、その機能を研究所の敷地内を含む他の場所に確保し、研究が終了した後、平成28年4月1日に使用を中止し、平成29年3月30日に国庫納付しております。

##### ③ 減損額のうち損益計算書に計上した金額と計上していない金額の主要な固定資産ごとの内訳

用途	種類	損益計算書に計上した金額	損益計算書に計上していない金額
生態系研究フィールドⅡ (実験ほ場)	土地、建物等	—	582,503,663 円

##### ④ 回収可能サービス価額

当該固定資産にかかる回収可能サービス価額は、現物による国庫納付を行ったため、使用価値相当額として正味売却価額を採用しています。正味売却価額は現物による国庫納付を行ったため、土地については、相続税評価方式により算定した価額、建物等については帳簿価額としております。

#### (2) 奥日光環境観測所

##### ① 減損を認識した固定資産の用途、種類、場所、帳簿価額等の概要

用途	種類	場所	帳簿価額	
奥日光環境観測所管理棟 " 実験棟	建物	栃木県日光市	管理棟	17,231,497 円
			実験棟	5,471,986 円

概要： 奥日光環境観測所は、昭和63年3月に竣工し、森林生態系に及ぼす環境汚染の影響及び環境汚染の非汚染地として、人為的影響の小さい自然を有する奥日光地域において、大気質・水質等の自動観測や、伐採された森林における植生回復を長期に渡って観測することを目的として整備された施設です。

## ②減損の認識に至った経緯

「独立行政法人整理合理化計画」（平成19年12月24日閣議決定）を受け、平成21年3月に策定した「独立行政法人国立環境研究所大型実験施設等見直し計画」に基づき、平成22年度に奥日光環境観測所の観測タワー、取水設備等を撤去し、同観測所の管理棟及び実験棟については、同観測所周辺をフィールドとする生物研究等の実施のための休憩施設及び資材置き場等として利用してきました。

今般、フィールドにおける生物研究等が終了したことから、平成28年度において管理棟、実験棟及び付帯設備の解体工事の実施設計を行い、平成29年度に解体及び植生復元のうえ、敷地所有者である関東森林管理局日光森林管理署へ返還するものです。

## ③減損額のうち損益計算書に計上した金額と計上していない金額の主要な固定資産ごとの内訳

用途	種類	損益計算書に計上した金額	損益計算書に計上していない金額
奥日光環境観測所管理棟 〃 実験棟	建物	—	22,703,434円

## ④回収可能サービス価額

当該固定資産にかかる回収可能サービス価額は、解体撤去工事完了後、処分を予定しているため、回収可能サービス価額は使用価値相当額として備忘価額により測定しております。

## 〔損益計算書関係〕

ファイナンス・リース取引が損益に与える影響額は、△9,183,068円であり、当該影響額を除いた当期総利益は、62,117,643円であります。

## 〔キャッシュ・フロー計算書関係〕

### 1. 資金の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

現金及び預金勘定	4,646,467,362円
資金期末残高	4,646,467,362円

### 2. 重要な非資金取引

不要財産の現物による国庫納付による資産の減少	1,231,549,576円
ファイナンス・リースによる資産の取得	1,592,918,333円
無償譲与による資産の取得	24,968,737円

## 〔金融商品関係〕

### 1. 金融商品の状況に関する事項

資金運用については短期的な預金に限定しております。

未収債権については、概ね国（環境省）からの業務受託に係る未収金です。また、投資有価証券は、保有しておりません。未払債務については、一年以内の支払期日に係る未払金です。

### 2. 金融商品の時価等に関する事項

期末日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

[単位：円]

		貸借対照表 計上額	時価	差額
(1)	現金及び預金	4,646,467,362	4,646,467,362	—
(2)	未収金	2,378,009,952	2,378,009,952	—
(3)	未払金	( 3,777,258,647 )	( 3,777,258,647 )	( — )

(注) 負債に計上されているものは、括弧書きで示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法

(1) 現金及び預金、(2) 未収金、(3) 未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

## 〔重要な債務負担行為〕

### 1. 重要な工事請負契約、物品購入契約等

1) 子どもの健康と環境に関する全国調査データ管理システムの更改及び運用保守業務	1,429,828,200 円
2) スーパーコンピュータを含むコンピュータシステム 一式	1,264,027,788 円
3) エコチル調査血液試料有機フッ素化合物分析業	1,242,000,000 円
4) 電気・機械設備運転管理業務	1,015,027,200 円
5) GOSAT-2 データ処理運用システム (G2DPS) 基幹部の詳細設計業務及び製造業務	617,033,700 円
6) GOSAT-2 データ処理システム用計算機 (第1次導入) 1式	356,400,000 円
7) エネルギー消費量計測・集約装置1式の賃貸借及び設置・運営補助業	347,941,440 円
8) エルゼビア社 Science Direct 電子ジャーナルの利用	236,749,571 円
9) 子どもの健康と環境に関する全国調査における尿試料中コチニン及び8-ヒドロキシ-2'-デオキシグアノシン分析業務	231,120,000 円
10) 子どもの健康と環境に関する全国調査にかかる生体試料の保管業務	219,192,004 円

### 2. 偶発債務

なし

## 〔資産除去債務関係〕

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

### 1. 資産除去債務の概要

石綿障害予防規則(以下「石綿則」という。)に基づくアスベスト除去費用及び放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律(以下「放射線障害防止法」という。)に基づく除去費用であります。

### 2. 資産除去債務の金額の算定方法

使用見込み期間を 26 年から 50 年と見積もり、割引率は 2.253%から 2.304%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

### 3. 当事業年度における資産除去債務の総額の増減

期首残高	48,503,032 円
有形固定資産の取得に伴う増加額	—
時の経過による調整額	1,102,257 円
資産除去債務の履行による減少額	—
その他増減額(△は減少)	—
期末残高	49,605,289 円

## 〔不要財産に係る国庫納付等〕

### 1. 不要財産としての国庫納付等を行った資産の種類、帳簿価額等の概要

資産名	種類	帳簿価額	
		土地	建物等
生態系研究フィールドⅡ (実験ほ場)	土地、建物等	1,206,087,217 円	
			25,462,359 円

### 2. 不要財産となった理由

独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針(平成 22 年 12 月 7 日閣議決定)に基づき、生態系研究フィールドⅡについては、その機能を研究所の敷地内を含む他の場所に確保し、研究が終了した後、平成 28 年 4 月 1 日に使用を中止し、国庫納付することとしたためです。

### 3. 国庫納付等の方法

現物による国庫納付

### 4. 国庫納付等の額

1,231,549,576 円

### 5. 国庫納付等が行われた年月日

平成 29 年 3 月 30 日

### 6. 減資額

政府出資金 1,872,937,274 円

## 〔重要な後発事象〕

なし